

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信越自然郷エリアにおける日本版DMO推進事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 信州いいやま観光局 理事長 月岡 壽男 飯山駅観光交流センター
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	14,381,534円 (うち支援金: 7,797,000円)

事業内容

- 1 エリアの魅力を活かした滞在プログラム・コンテンツの企画、造成、PRをJR東日本、JR西日本と連携して実施。また、各広告媒体によるPRを実施した。
- 2 アウトドアアクティビテコーディネーター及びガイドとして活躍できる者の育成、DMO人材の研修として、研修会の開催、参加を行った。
- 3 アウトドアメーカー (株)モンベルと連携し、商品開発や情報発信等を行った。



【JRタイアップパンフレット】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1 エリアの魅力を活かした滞在プログラム・コンテンツのPRをJR東日本、JR西日本と連携して実施。また、各広告媒体によるPRを実施したことにより、北陸新幹線飯山駅の認知度が向上した。
- 2 長野県が「しあわせ信州創造プラン」により進める「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり」やNAGANO モビリティ (仮称) を長野県と連携し、事業を展開し、人材育成することができた。
- 3 信越自然郷エリアでのNAGANO モビリティ (仮称) の実現に向けて、民間企業との連携を図りながら、商品開発や情報発信を行い、認知度が向上した。

【目標・ねらい】

- ①信越自然郷の発信・PR
- ②北陸新幹線飯山駅の認知度向上

※自己評価【A】

【理由】

北陸新幹線飯山駅が信越自然郷エリアの玄関であることが周知できたことにより、特に冬期の飯山駅利用が増えた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・ 信越自然郷の3つの価値「食」「アウトドア」「リラクゼーション」の発信と提供する環境づくりを実施し、「保養・獲得型」で楽しめる旅行プランの充実を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある